

1. 地域からみた「食べること」を支えるシステムを考える

新宿区健康部健康企画・歯科保健担当副参事

矢澤 正人

高齢者社会において、人生を最期のときまで、健やかに、地域で暮らしていくためには、生涯、自分の口から物を食べられるということが重要である。しかしながら、脳卒中の後遺症や、あるいは廃用症候群などにより、摂食・嚥下障害を持つ高齢者も増加している。今日、こういった方々に対して、地域の病院、診療所、歯科診療所等を中心として、摂食・嚥下機能の支援の取組みが、熱心に行われてきている。

一方で、目を子どもに転じれば、子育て支援の観点から、乳幼児の口腔機能の発達や食育の取組みが、地域でさまざまな関係者によって、積極的に推進されている。

しかしながら、これらのサービスや実践は、ややもすると、熱心な医療機関や関係者の個々の事例に終始し、必ずしも地域において、システムとして、あるいは、面の展開として実施されているという例は、なかなか見えてこない。

そこで、保健所が、地域のさまざまな関係者とともに、地域の仕組みづくりに取り組んだ事例をたたき台として、食べることを支えるシステムの構築について、また、そのための連携のあり方について考えてみたい。